

第二期における教育・保育提供区域の設定について

○比較

	一地区＝区域あたりの範囲が広い	複数地区＝区域あたりの範囲が狭い
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的な需要の増減等に対して、広域で調整がしやすい。 ・施設運営は、広範囲の児童を柔軟に受け入れ、安定しやすい。 ・地域に限定されない幅広い交流が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の居住地域に必要な事業・施設が整備され、利便性が高まる。 ・コミュニティ、生活圏とリンクしており、区域内での移動が容易である。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・施設との距離が遠いため、事業によっては区域内での利用が困難な場合が発生する可能性がある。 ・仕事や住居の関係で中心地の施設に入所希望が集まりがちで、未満児は途中入所が難しい。 ・コミュニティ、生活圏が違うエリアから児童が集まるため、親同士の連携が図りにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区域内で需要バランスを取るため、隣接区域の状況にかかわらず区域内での整備が必要となる。 ・施設運営は、狭い区域内の児童数に左右され不安定になりやすい。 ・児童数により区域の見直しが必要となる。 ・現在、保護者は子どもが未満児のときは職場の近く、年少、年中になって学区近くの保育園へ移るなど多様な利用をしている。複数地区へ戻した場合は混乱が生じることが考えられる。